



平成 29 年 5 月 30 日

各 位

会 社 名 株 式 会 社 ゼ ネ ラ ル ・ オ イ ス タ ー
代 表 者 名 代 表 取 締 役 C E O 吉 田 秀 則
(コード番号：3224 東証マザーズ)
問 合 せ 先 常 務 取 締 役 C F O 経 営 戦 略 本 部 長 安 部 浩 司
(TEL. 03-6667-6606)

資金の借入に関するお知らせ

当社は、本日開催の取締役会（以下、「本取締役会」といいます。）において、株式会社アスラポート・ダイニング（以下、「アスラポート・ダイニング」といいます。）から資金の借入を行うことを決議いたしましたので、下記のとおりお知らせいたします。

記

1. 資金の借入の背景

当社グループは、当社と連結子会社7社で構成され、「牡蠣の新たな価値を創造し、画期的な未来を提供します。」をミッションとして、種苗、生産、加工、販売に至るまでの安全を軸とした高品質な牡蠣の6次産業化（※）を具現化するべく取り組んでおります。

（※）「6次産業化」とは、一次産業としての農林漁業と、二次産業としての製造業、三次産業としての小売業等の事業との総合的かつ一体的な推進を図り、地域資源を活用した新たな付加価値を生み出すことをいいます。

当社グループの現在の売上高は、オイスターバーを主体とした店舗事業と国内外食店舗を主要顧客とする卸売事業によって構成されております。しかしながら、店舗事業については、テナント出店している商業施設の低迷や牡蠣を扱う飲食店の増加に伴う競争激化等により苦戦が続いているほか、卸売事業についても、競合他社の増加や大口顧客の閉店などの影響により伸び悩みの状況にあります。また、費用についても、原材料や人件費の高騰を受け、厳しい経営環境に置かれています。

平成 29 年 3 月期においては、売上高 3,866,248 千円（前期比 0.6%減）、営業損失 461,918 千円（前期は 342,542 千円の営業損失）、経常損失 475,079 千円（前期は 349,591 千円の経常損失）、岩手県大槌町の加工工場建設に伴う補助金収入を特別利益計上、事業再構築の一環として浄化センターの統合費用、店舗閉鎖損失及び減損損失を特別損失計上の結果、親会社株主に帰属する当期純損失 744,051 千円（前期は 486,303 千円の親会社株主に帰属する当期純損失）となっております。また、当社の連結純資産も、平成 27 年 3 月末に 1,107,151 千円あったところ、平成 28 年 3 月末には 679,598 千円に、平成 29 年 3 月末には 123,158 千円に減少しております。

当社グループとしては、既存事業の立て直しを図るとともに、牡蠣の 6 次産業化の早期具現化により成長を加速するためには、海外を含めた牡蠣及び牡蠣加工品の販路開拓のほか、財務体質の強化を図り、「あたらない牡蠣」の陸上養殖事業への成長投資や新たな収益基盤の確立を推進する必要があると考えております。

アスラポート・ダイニングは、「食のバリューチェーンを構築する」という目標を掲げて外食から生産事業並びに流通事業への進出を果たし、多層的な付加価値を生み出すビジネスモデルの構築に取り組んでおります。そして、これを実現するための 4 つの戦略として「既存ブランドの競争力強化と成長」、「ブランド・ポートフォリオの多様化」、「海外市場への進出」、「食品生産事業と六次産業化」の各課題へ積極的に取り組み、更なる成長を目指しております。

当社グループは、競争が激化する中で、「あたらない牡蠣」による他社との差別化、CRM の強化、事業の再構築など業績回復に向けた手段を講じているものの、益々厳しくなると予想される市場環境の中で成長し続けるためには、当社グループだけではなく、他企業とのアライアンスによって、事業拡大を図ることが必要であると検討しておりました。

こうした状況下、当社は、アスラポート・ダイニングと面談の機会を得て、協業出来る内容について話し合いを進めてきました。アスラポート・ダイニンググループから当社へ役員 3 名の派遣を通じた取引関係の強化について合意に至り、アスラポート・ダイニンググループへの牡蠣の販売、海外輸出事業の強化について、双方の企業価値向上が見込めるよう、両社間で慎重に検討を重ねております。

一方、当社は業績が厳しい状況が続いたため、平成 29 年 3 月末時点での手元資金が 60,968 千円となっております。当社では、仕入に係る費用、人件費等の一般管理費、その他の経費等の月末の平均支払額が 200,000 千円程度であり、不足している運転資金を早急に確保する必要があります。そのため、業務提携を前提にアスラポート・ダイニングから運転資金の借入を受けることにいたしました。

2. 借入の概要

(1) 借入日	平成 29 年 5 月 30 日
(2) 金額	200,000 千円
(3) 金利	年率 3.0%
(4) 返済期限	平成 29 年 11 月 30 日
(5) 借入先	株式会社アスラポート・ダイニング
(6) 連帯保証人	吉田 秀則 (当社代表取締役)
(7) 資金使途	運転資金

3. 借入先の概要

(1) 名 称	株式会社アスラポート・ダイニング
(2) 本店の所在地	東京都品川区西五反田 1-3-8
(3) 代表者の役職・氏名	代表取締役会長 檜垣 周作 代表取締役社長 中村 敏夫
(4) 事業内容	外食フランチャイズ本部の運営、外食店舗の運営 食品の製造、小売 食料品の加工、卸
(5) 資本金	2,910,363 千円
(6) 設立年月日	平成 19 年 1 月 12 日
(7) 発行済株式数	29,890,439 株 (平成 29 年 3 月 31 日現在)
(8) 決算期	3 月 31 日
(9) 従業員数	連結 621 名 (平成 28 年 3 月 31 日現在)
(10) 主要取引先	株式会社レインズインターナショナル
(11) 主要取引銀行	東京スター銀行、東日本銀行、肥後銀行、横浜銀行
(12) 大株主及び持株比率	HSI グローバル株式会社 36.34% 株式会社神明ホールディング 9.99% アサヒビール株式会社 4.89% 東洋商事株式会社 3.99% LGT BANK LTD JAPAN RESIDENT TOKYO 常任代理人 株式会社三菱東京UFJ銀行 3.12% 川上 統一 1.40% オリエンツビルデベロップメント 6 号株式会社 0.76% THE BANK OF NEW YORK - JASDEC

	NON - TREATY ACCOUNT 常任代理人 株式会社みずほ銀行決済営業部 0.75% ワイエスフード株式会社 0.68% BANK LOMBARD ODIER AND CO LTD GENEVA 常任代理人 株式会社三菱東京UFJ銀行 0.63%		
(13) 当事会社間の関係			
資本関係	当社と当該会社との間には、記載すべき資本関係はありません。また、当社の関係者及び関係会社と当該会社の関係者及び関係会社との間には、特筆すべき資本関係はありません。		
人的関係	当社と当該会社との間には、記載すべき人的関係はありません。また、当社の関係者及び関係会社と当該会社の関係者及び関係会社との間には、特筆すべき人的関係はありません。		
取引関係	当社と当該会社との間には、特筆すべき取引関係はありません。当社の関係者及び関係会社と当該会社の関係者及び関係会社との間には、特筆すべき取引関係はありません。		
関連当事者への該当状況	当該会社は、当社の関連当事者には該当しません。また、当該会社の関係者及び関係会社は、当社の関連当事者には該当しません。		
(15) 最近3年間の経営成績及び財政状態			
決算期	平成 27 年 3 月期	平成 28 年 3 月期	平成 29 年 3 月期
純 資 産	2,717,860 千円	5,243,651 千円	7,715,945 千円
総 資 産	11,231,788 千円	23,633,125 千円	27,722,261 千円
1 株 当 たり 純 資 産 (円)	128.36	197.56	246.64
売 上 高	11,167,069 千円	23,495,338 千円	36,244,906 千円
営 業 利 益	700,612 千円	817,325 千円	1,078,978 千円
経 常 利 益	622,639 千円	724,403 千円	922,260 千円
親会社株主に帰属する当期純利益	388,912 千円	520,624 千円	526,946 千円
1 株 当 たり 当 期 純 利 益 (円)	20.46	23.19	18.13
1 株 当 たり 配 当 金 (円)	—	—	—

4. 今後の見通し

具体的に当社の業績に与える影響については精査中であり、判明次第速やかにお知らせいたします。

以 上